たとえリセットされても

「友情」と「愛情」

6年　T・Nさん

「たとえリセットされても」は小学四年生になり、転校してきた医療用ロボットの愛と同じ小学校に通う友達とのあたたかい友情、二人きりで暮らしている愛の母からの「愛情」を描いた物語です。

私はロボットである愛と人間である友達との「友情」と、愛の母が愛に向ける「愛情」は別のもののようで同じであるように感じました。

愛の友達の柚果と大樹はみんなが運動会でのきれいな走りや整った顔立ちの愛のことをロボットのようで気持ちが悪いと嫌い言いたい放題悪く言う中でロボットではなく人間だと信じ、ロボットと分かった後でも仲良くしつづけいつまでも愛の友達であり「味方」でした。

愛の母は子供ができなくなる病気に罹ってしまい、しかもその矢先に夫に先立たれ、「心の病気」になってしまいました。なので医師に医療用ロボットである愛を「処方」してもらい、愛の母親となったのです。しかし、愛の母はロボットの愛を本当の娘のように「愛して」おり、何度も「いてくれるだけでいい」、「お願いだからがんばらないで」と「普通」の親ならあまり言わないことを言い、私はこの言葉を読んで愛の母の「歪んだ愛情」を感じました。愛自身も「自分はお母さんのためにいる」と認識していることからも感じられます。

この「友情」と「愛情」の最大の共通点はどちらも「愛のことを大切に思っている」ということを根源としていることだと思います。

「友情」は柚果と大樹、最初は愛のことを気持ちが悪いと言っていたはるねも自分は努力せずとも何でもできてしまう愛のことがうらやましかったのだと自覚し、逆に嫌なことを言って嫌な気持ちになるのは自分ということに気付き、愛が分解されて二度と会えなくなってしまうことを恐れ、逃げようとした時に隠れる場所を教えてくれたりし、協力してくれました。それは、愛の母などとはまた違った「大切に思っている」ということだと思います。

「愛情」はたとえ病気を治すために処方された医療用ロボットだとしても、自分の「娘」として愛し、とても大切に思っていたということだと思います。

この話は「ロボット」と「人間」という正反対な「ひと」達の友情や愛情を描いた物語でした。もし、私にロボットの友達がいたらこう、声をかけてあげたいと思います。

「たとえリセットされても『あなたは一生私の大切な友達』だからね」と。